

議 事 録

S-F3

公開 可 否

配布先		主催		No.	
議事録名 令和元年度 第1回 佐久市地域包括支援センター運営協議会		部長		課長	企画幹
		承認		事務局	記録者
日 時	令和元年8月23日(金)	開催場所	佐久市保健センター	時間	13:30～15:00
出席者	菊池小百合、金澤秀典、高見澤一伸、今牧健之、小林光男、小平實、田島弘、小林由美子、丸山景子、井出進、山田美咲、仁科隆子、白石真紀				
提出資料	地域包括支援センター運営協議会会議資料				
<p>(報告事項)</p> <p>(1) 包括的支援事業関係</p> <p>ア 平成30年度地域包括支援センター事業報告及び収支決算報告について【資料1・2】</p> <p>イ 令和元年度地域包括支援センター事業計画及び収支予算について【資料3】</p> <p>(2) 生活支援体制整備事業関係</p> <p>ア 平成30年度生活支援体制整備事業報告及び収支決算報告について【資料4】</p> <p>イ 令和元年度生活支援体制整備事業計画及び収支予算について【資料5】</p> <p>ウ 令和元年度地域包括支援センター第2層協議会開催予定について【資料6】</p> <p>(3) 家族介護者支援事業について【資料7】</p> <p>(4) 地域包括支援センター評価事業について【資料8】</p> <p>(5) その他</p> <p>(質疑応答)</p> <p>1 開会</p> <p>2 課長あいさつ</p> <p>3 委嘱書交付</p> <p>4 委員紹介 (金澤会長から順に自己紹介)</p> <p>5 あいさつ(金澤会長)</p> <p>6 協議事項</p> <p>(1)ア 平成30年度地域包括支援センター事業報告及び収支決算報告について 事務局説明 資料1・2</p> <p>金澤会長 ただいま事務局より説明があつたが、質問等あるか。</p> <p>田島委員 資料2-1収支決算書について。病院負担金の項目が、予算額と決算額が大分差があるが、内容を教えてください。</p> <p>事務局 法人負担金について。地域包括支援センターの運営経費については、基本的に市からの業務委託料でまかなっていただくことを想定しているが、業務の規模に応じて法人から負担金の拠出があり、その金額は法人によって異なるので差が出ている。</p>					

- 金澤会長 資料1-1、相談件数集計について。「総合相談支援業務」の件数が、一番多い中部と一番少ない白田では2000件もの差がある。「権利擁護業務」に関しては、中込・野沢地区は489件となっていて、他の包括と差が大きいようだが、理由を教えてください。
- 事務局 1つの要因としては、担当圏域別の高齢者人口に差があること。旧圏域では、多いところと少ないところでは約3000人ほどの差があった。もう1つの要因としては、受理した相談を種別ごとに分類していく際に、包括支援センターごとの判断で行っているが、その基準が統一されていないために差が出てしまった。そのため各職員が同じように分類できるよう、学習会等を実施しています。
- 金澤会長 統計資料を作成する際には、統一した基準でデータを出していただかないと評価することができない。包括ごとに本当に差があるのか見ていく必要があるのでは、そこはお願いしたいと思います。
- 菊池委員 人口統計の表を見ると、地区によって高齢化率や独居高齢者の割合に差があることがわかる。また、高齢者の数は同じでも世帯の構成ごとに介護力は違ってくるので、相談件数集計の件数の差が、単なる統計処理上のミスなのか、それとも実際に件数に差が出てしまっているのか、そこが問題になってくると思う。
- 金澤会長 まさにその通りで、地域性とその背景を探ってほしいと思います。
- (1)イ 令和元年度地域包括支援センター事業計画及び収支予算について
事務局説明 資料3
- 金澤会長 ただいま事務局より説明があったが、質問等あるか。
- 高見澤委員 今回佐久平・浅間地域包括支援センターの増設で、予算が2600万円ほど上乗せとなっているが他の包括の予算が大幅に減っているわけではないところを見ると、全体としては支援にかかる予算が増えたというように解釈してよいのでしょうか。
- 事務局 その通りです。
- 高見澤委員 その増えた予算で行う予定の事業などはありますか。
- 事務局 これまで実施してきた事業については、各圏域ごとに開催できるよう、開催場所を増やした。新たに「家族介護者支援事業」も包括へ業務委託した。それを含め今までの業務を充実させていくことを考えている。
- 高見澤委員 お金が増えて、それだけいい支援ができるということだと思うので。がんばってください。
- 金澤会長 昨年までは5か所だった包括、場所ごとに対象の数の差が激しかったという問題がある。国の限度は1包括当たり6千人ということになっている。佐久市が6包括に増えても1包括当たり5400人くらいになりますね。予算が増えてその分サービスができるということですね。
- 小平委員 資料60ページの支出の部「使用料および賃借料」とありますが、その内訳を教えてください。
- 事務局 佐久平・浅間地域包括支援センターの事務所は、開設にあたり新規に建築した。個人の方の土地と建物ということなので、法人からその方に賃料として250万円をお支払いしていると承知しています。
- 小平委員 他の包括に比べて突出していたので気になって伺いました。
- 金澤会長 他になにかありますか。
- 井出委員 8ページの平成30年度地域包括支援センター収支状況の表について。合計があればよかった。それと、予算についても、包括支援センターごとに別表にするのではなくて、一覧にしたほうが比較しやすいのでお願いしたい。
- (2)ア 平成30年度生活支援体制整備事業報告及び収支決算報告について
(2)イ 令和元年度生活支援体制整備事業計画及び収支予算について
(2)ウ 令和元年度地域包括支援センター第2層協議会開催予定について
事務局説明 資料4・5・6
- 金澤会長 質問等ありますか。ないようですので次に進みます。

(3) 家族介護者支援事業について
事務局説明 資料7

金澤会長 家族介護者支援事業について説明していただきました。こちらの事業は新たに地域包括支援センターが行うということですが、質問等ありますか。ないようですので先に進めさせていただきます。

(4) 地域包括支援センター評価事業について
事務局説明 資料8

金澤会長 地域包括支援センター評価事業について。評価した結果は県もしくは国に提出するのでしょうか。
事務局 地域包括支援センターの取組状況に関して国の調査があり、市は県を通じて国に提出します。
菊池委員 事業評価について。これは一般に公開されますか。
事務局 この結果については、一般の方には公開する予定はありません。
菊池委員 内部の評価として、新たな体制のための資料にしていくという認識でよろしいでしょうか。
事務局 はいそうです。

(5) その他

金澤会長 ありがとうございます。以上で協議事項はすべてとなります。
包括支援センターが1つ増えて、業務が楽になって、それに伴ってサービスの内容等もよくなっていくのか。実感としてはどのように感じているのか。まず仁科委員からお聞かせください。

仁科委員 旧佐久エリアで3つだった包括支援センターが4つになったが、野沢地域包括支援センターは特殊で、持っていた担当エリアの半分を、新設された包括支援センターにバトンタッチして、それより人口の多い地区を引き取ったという形になっている。高齢者人口としては1000人増えた。業務内容は125%増になる。新しい地区のため戸惑いもあったが、引継ぎの調整期間も取ってもらって丁寧に行うようにした。今年から介護教室などの地域住民の方に近づくような業務もやっている。当事業所はシルバーランドきしの2階にあり、来所者が少ないという長年の課題があったが、世の中に地域包括支援センターが浸透してきたせいもあるのか、路面にない包括支援センターでも来所者が増えたと実感している。予約もしていないご家族の方が「相談したいんですけど」と来てくださるようになった。

金澤会長 分布配置によって高齢者の方が増えたということですか。
仁科委員 そうです。それは事業計画の段階で分かっていたことなので、人員配置もあらかじめ考えていただいた。そのせいで病院負担金も多くなっている。

白石委員 浅科・望月地域包括支援センターは、今回は特に変更のない包括ですが、高齢化率としては一番高い地域になるので、今後ますますきめ細かい対応をしていかなければいけないと感じています。相談件数が増えているというお話があったが、当事業所が望月にあるため、浅科の方が相談に来づらいということがあったが、名前や連絡先が大分周知されてきたのか、来所よりは電話での相談件数が増えた。スタッフも1名増えたので以前より対応できる状況になっている。

金澤会長 ありがとうございます。ぜひがんばっていただきたいです。ほかの委員さんからも簡単に結構ですので一言ずつお願いします。

田島委員 民生委員として地域包括支援センターにはお世話になっている。困ったことがあるとなんでもお願いして、他につなげていただいたり。返答があるということが大変ありがたい。報告書の中でも、「(4) ニーズとサービスのマッチングに関すること」ということがあったが、せっかくそういった課題が上がったのだから、改善に向けてがんばっていただきたい。

小平委員 困難事例にも積極的に対応していただき、大変有り難い。

小林委員 初参加なのでわかっていないことが多いが、お話を聞いていると社会福祉協議会との関わりが深いと感じた。一つ質問で、高齢者の権利擁護に関する業務の中に「成年後見制度の活用」という項目があったが、社協でも同じ業務を行っているの、そのあたりの関わりについて教えてください。

事務局 権利擁護事業の一つで、成年後見制度の利用促進についての業務を行っている。「判断能力に不安がある」といった内容の相談は、地域包括支援センターが市民にとっての一番最初の窓口になる。相談を受けてその方の状況等を把握させていただいて、成年後見制度につなぐ必要がある方には、より専門的な視点が必要になるので、社会福祉協議会が受託されている成年後見センターにつなぐという関わりがある。

- 今牧委員 薬剤師会としても地域包括支援センターには大変お世話になっている。昨年も、自身の薬局から、支援が必要な患者さんを地域包括支援センターの方へつなげさせていただいた経験もあり、いつも有り難いと感じている。今後も、薬のことなど、何かあれば相談していただければと思います。
- 高見澤委員 協議会の委員として岩村田・東地域包括支援センターに4年間鍛えられた経験がある。今日やっと来ることができた。歯科医師会としても今後も関わっていければと思っている。
- 菊池委員 先ほど、来所者が増えているというお話があり、素晴らしいと感じた。私はどちらかというと認知症の方が専門。介護予防とか認知症予防として一生懸命取り組んでいる高齢者の方が初期の認知症を発症した時に、介護保険制度へつなぐ段階で、どこにどう相談に行ったらいいのかわからない、という状況が実は生じてきている。地域包括支援センターは、そんな時に相談できる身近な場になりつつある。困ったことがあったら相談できる場としてもっと周知されていくといいと思う。
- 小林委員 病院の外来看護師をしているので、皆さんには大変お世話になっている。せっかく保健指導員をやらせていただくことになったので、勉強させていただくつもりですので今後もよろしくお願ひ致します
- 丸山委員 今回使用した資料に関して、報告書式を統一してほしい。また、事業計画書と事業報告書について、どの包括も同じような内容で正直がっかりした。誤字など間違えている箇所も同じ。様式は同じものになってしまうのはわかるが、それぞれの地域に根差してやっていくならプラスアルファのところがほしかった。6か所に増えてそれぞれの地域の特長が違えば、やり方も違ってくるのではないかな。そういうところも表に出していただけたらいいのかなと思います。先ほど、「相談する場として」というお話があったが、来れる人、相談できる人はいいが、自分から相談できない人や困ったままずっと生活している人もなかにはいると思う。そういう人たちの支援方法についても考えていただきたいと思う。栄養士会としては、そういう方たちに直接会うことはないが、配食の相談等で栄養士会を使っただけければと思う。
- 井出委員 運営協議会には、5年前に2年ほど委員として関わっていた。その時は5圏域だったが今回6圏域になったということで、範囲がわかりやすくなったかなと思う。今後も支援をお願いしたいと思う。また、5年前に比べて業務内容のボリュームが増えているなど実感した。地域包括支援センター共通の事業もあると思うが、地域ごとに特性があると思うので、その特性に合った予算や事業内容を考えていただきたい。
- 山田委員 私たちは普段地域包括支援センターからお仕事をいただく立場ですので、本当にお世話になっています。日々利用者さんからは「包括の誰々さんにお世話になったんだよ」といったお話を聞きます。包括支援センターからお仕事を引き継いだ時に「包括のほうがよくやってくれた」と言われないように、気を引き締めてやっていきたいと思う。
- 金澤会長 ありがとうございます。委員の皆様から他になにかありますか。
- 田島会長 先ほど丸山景子委員からお話があったが、地域の中で「こんなこと相談したい」ということが出てきたときに、それを聞き出す役は民生委員が担っている。白田地区では包括支援センターと民生委員の会合を年3回行っている。地域包括支援センターの方でも、民生委員にお願いしたいことがあれば相談してもらいたいと思う。
- 金澤会長 ありがとうございます。地域包括支援センターをうまく運営していくための意見を吸い上げて討論するのがこの協議会の目的です。今後もよろしくお願ひします。

7 事務連絡

8 閉会